

**ASEAN 人材育成奨学パートナーズ支援（AHEAD50）**  
**ASEAN 事務局 食料・農業・林業課及び ASEAN 統合イニシアティブ・開発格差是正課**  
**職員 招へいの記録（短期招へい第 4 陣）**

## 1. プログラム概要

### 【目的・概要】

ASEAN 事務局の食料・農業・林業課及び ASEAN 統合イニシアティブ・開発格差是正課から、それぞれ 4 名ずつ、計 8 名の職員が、2 月 8 日から 14 日にかけて訪日しました。

今回の訪問は、ASEAN の食料・農業分野における課題解決に向けた組織能力の強化を目的としています。本プログラムでは、食料・農業・林業分野の課題解決、ASEAN 統合の推進、そして、特にカンボジア、ラオス、ミャンマー、ベトナム（CLMV 諸国）及び東ティモールに焦点を当てた、開発格差の是正を主要な目的としました。

具体的には、農業分野におけるデジタル技術の応用、持続可能な資源開発・管理、気候変動対策などについて知識を深め、実践的なアプローチを探求しました。また、持続可能な農業、地域社会のエンパワーメント、循環型・グリーン経済、支援のための金融メカニズムといった戦略的テーマについても議論が行われました。

これらの取り組みは、日本の大学、研究機関、民間企業との連携を通じて実施されました。訪問を通じて得られた専門知識やベストプラクティスは、ASEAN 域内全体の包摂的な成長とレジリエンス（強靱性）を支える貴重な資源となることが期待されています。

### 【AHEAD50】

**AHEAD50**（ASEAN Human Educational Development Scholarship Partners）は、2023 年の日本 ASEAN 友好協力 50 周年を契機に開始した招へい事業。ASEAN 事務局等の有望な職員に対し、日本の政策・制度・立場等につき学ぶ機会を提供し、人材育成を通じて ASEAN 事務局の強化を図るとともに、日本との円滑な協力を促進することを目的としている。

### 【参加者】

食料・農業・林業課（Food, Agriculture and Forestry Division（FAFD））及び ASEAN 統合イニシアティブ・開発格差是正課（Initiatives for ASEAN Integration and Narrowing Development Gap Division（IAI & NDG））の職員 8 名

（課長級 1 名、上級職員 2 名、職員 5 名）

### 【訪問地】東京都、神奈川県

### 【日程】

#### ■ 招へいプログラム：

2 月 8 日（日曜日） 成田国際空港より入国

【ブリーフィング】

2月9日（月曜日）

【講義・意見交換】農林水産省

講師：輸出・国際局 国際地域課 稲田 善秋 国際交渉官（東南アジア担当）を含めた農林水産省及び林野庁の職員計8名

【視察】株式会社アクポニ（濱田 健吾 代表取締役）

【Observation】AQUPONI INC. (Mr. HAMADA Kengo, CEO)

【講義・意見交換】公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）

「ASEAN における気候変動及び脱炭素化の取り組みの現状と今後の方向性 — 農業分野への影響に焦点を当てて」

講師：戦略マネジメントオフィス シニアリサーチマネージャー／  
レンズ・ファシリテーター 有野 洋輔 氏

2月10日（火曜日）

【講義・意見交換】一般社団法人 全国農業協同組合中央会（JA 全中）

「日本の農業協同組合と直面する課題」

講師：協同組合連携リーダー 一箭 拓朗 氏

・営農指導、農産物の販売、生産資材の供給や組合員・地域の相互扶助等について

【講義・意見交換】東京大学大学院農学生命科学研究科

「農業生産性向上が経済成長と貧困削減に及ぼす影響」

講師：国際食料システム学 農業・資源経済学専攻 櫻井 武司 教授

・国際食料システム学：サブサハラ・アフリカや南アジアの食料・貧困問題を、農業経済学・開発経済学の手法で研究。農業生産性向上が経済成長や貧困削減にどう結びつくかを、環境・資源管理、技術、市場制度に着目した分析について

【講義・意見交換】政策研究大学院大学（GRIPS）

「農業者及び中小零細企業（MSMEs）の市場・金融アクセスの強化：障壁、解決策、そして持続可能な開発に向けた政策オプション」

講師：園部 哲史 教授・公共政策プログラム国際協力コース 副ディレクター  
祝日

2月11日（水曜日）

2月12日（木曜日）

【講義・意見交換】独立行政法人国際協力機構（JICA）

「アジア太平洋地域における JICA の森林分野協力」

講師：地球環境部森林・自然環境保全グループ 第1チーム 毛笠 貴博 氏

・マングローブや森林の保全プロジェクト、特にエコシステムの維持・発展において住民組織・コミュニティを重要な実施主体として取り込み、持続的な生計向上に寄与する事例について

【講義・意見交換】日本政策金融公庫（JFC）

「日本の農業及び農業金融における JFC の役割」

講師：農林水産事業本部 情報企画部 海外展開支援グループ  
グループリーダー 代理 村上 裕紀 氏

・優れた農業者（認定農業者を含む）や輸出関連事業者（生産者、食品製造業

者、流通業者) に対して経営改善資金や農林水産物の輸出基盤強化資金などの金融サービスを提供し、安全で高品質な食料の安定供給や持続的な発展を促進する施策。また、APRACA (アジア太平洋農村・農業信用協会) などの取り組みを通じた知識の共有について

【講義・意見交換】国連大学 (UNU)

講師：鈴木 綾 上級副学長／国連事務次長補

「高付加価値農業と小規模農家の課題：実証研究に基づく考察」

・主要な研究テーマの一つは、アフリカとアジアにおける高付加価値型輸出農業であり、ベトナムやインドネシアなどでの大規模な現地調査によって明らかになった農産物の高付加価値化がもたらす社会的・経済的影響を取り上げ、開発途上国が農業と産業開発を焦点としていかに貧困を削減できるかについて。

【文化体験】茶道体験

2月13日 (金曜日)

【ワークショップ】報告会準備 (訪日成果のとりまとめ、帰国後の活動計画 (アクション・プラン) の作成)

【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表

2月14日 (土曜日)

成田国際空港より出国

## 2. 記録写真

### 招へいプログラム



2026年2月9日【講義・意見交換】  
農林水産省・林野庁



2026年2月9日【視察】  
株式会社アクポニ.



2026年2月10日【講義・意見交換】  
地球環境戦略研究機関 (IGES)



2026年2月10日【講義・意見交換】  
全国農業協同組合中央会 (JA 全中)



2026年2月10日【講義・意見交換】  
東京大学大学院農学生命科学研究科



2026年2月10日【講義・意見交換】  
政策大学院大学（GRIPS）



2026年2月12日【講義・意見交換】  
国際協力機構（JICA）



2026年2月12日【講義・意見交換】  
日本政策金融公庫（JFC）



2026年2月12日【講義・意見交換】  
国連大学（UNU）



2026年2月12日【文化体験】茶道体験

### 3. 参加者の感想（抜粋）

- ASEAN において新たに採択された「食料・農業・林業分野のセクター別計画（2026-2030）」及び「IAI Work Plan V」との関連においても、本プログラムは極めてタイムリーであり、参加者にとって大変貴重な学びの機会となりました。特に農業分野については、示唆に富むご説明と活発な議論を通じ、日本のスマート農業の取り組みや関連プロジェクトへの理解を一層深めることができました。
- アクアポニックスの実践的な活用方法について学ぶことができ、統合型の水産養殖と水耕栽培のシステムが循環型経済の促進にどのように貢献し得るのか、多くの示唆を得ることができました。特に、持続可能な資源利用、効率的な水管理、環境負荷の低減に向けた革新的なアプローチ、そして起業の厳しさについて理解を深める貴重な機会でした。

- 内容は非常に示唆に富み、特に、ASEAN の気候スマート農業イニシアティブ、アグロフォレストリー、アグリボルタイクス、水管理、環境的に脆弱な地域の評価など、多岐にわたる分野について多くの知見を得ることができました。さらに、IGES とメコン河委員会（MRC）との協力について学ぶことができたことも大変有益でした。
  - 農業協同組合が農家の生計向上に果たす重要な役割・恩恵について、多くの新たな知見を得ることができました。営農指導、スマート技術の普及支援、融資などの取り組みに加え、生活改善指導といった非農業分野の支援まで幅広く実施されている点は、ASEAN 各国でも今後応用可能な示唆に富む内容でした。
  - 非常に分かりやすく、豊富な実証的知見に基づく深い洞察を得ることができました。講義内容は、農業技術の実践に重点が置かれていましたが、ASEAN 事務局が、特に後発国に対して行う発展段階や利用可能な資源に応じた農村開発支援の政策策定にもつながる重要な示唆を含んでおり、大変有益でした。
  - 農業を通じた経済発展、農家の能力強化、そして農業・MSME サプライチェーンにおける多様な役割など、幅広いテーマについて豊富な経験と深い専門性に基づく説明は非常に分かりやすく、多くの学びを得ることができました。
  - JICA の取り組みや ASEAN 諸国を含む各国との協力について理解を深めることができ、地域協力活動やプロジェクトを検討するうえで大変参考になりました。また、将来的な連携の可能性を考える上で非常に有意義でした。食料・農業・林業分野に限らず、より幅広い分野での協力の可能性を見出す機会にもなりました。
- さらに、協力スキーム全般に関するセッションでは、林業・自然保全分野における協力、日本の ODA、技術協力・円借款・無償資金協力、さらには GCF（緑の気候基金）など外部資金の活用に至るまで、幅広い情報を得ることができ、大変価値のある内容でした。
- 紹介された研究論文、特に ASEAN に関連するベトナムの事例研究は非常に有用でした。ASEAN 事務局の業務にも関連しており、プロジェクト管理や政策レベルでの役割に応じて調整・活用することで、セッションの成果を今後の業務に直接反映させることができます。

#### 4. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）

<p><b>Lessons learnt, Insights and Key Takeaways</b></p> <p>ASEAN Human Educational Development Scholarships Partners AHEAD50 Mission#4 8-13 February 2026, Tokyo, Japan</p>	<p><b>Some Follow up Actions</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Translate learning into ASEAN pilot initiatives:             <ul style="list-style-type: none"> <li>• Develop similar study on smart agriculture and sustainable forestry demonstration projects in ASEAN Member States, studying Japan's models (farmer-farmer systems, cooperative-based services, forest restoration opportunities) to extend outreach with emphasis on affordable and scalable technologies.</li> </ul> </li> <li>2. Strengthen policy and technical collaboration with Japanese institutions             <ul style="list-style-type: none"> <li>• Enhance cooperation with JICA, ICGI, JICA (Forest), and research institutes to support pilot-scale smart agriculture, riparian restoration, Enhance sustainable forest management and restoration and terrace cooperative-based agribusiness models.</li> </ul> </li> <li>3. Integrate lessons into ASEAN strategic frameworks             <ul style="list-style-type: none"> <li>• Enhance learning on cases in ASEAN Smart Agriculture Initiatives, One Billion Tree Growth Programme and Climate Resilient.</li> </ul> </li> <li>4. Establish continuous ASEAN-Japan dialogue platform             <ul style="list-style-type: none"> <li>• Create regular policy and technical exchanges by linking Japan agencies at relevant sectoral bodies meeting.</li> <li>• Develop a joint proposal/proposal with Japan agencies in areas that become mutual concern.</li> <li>• Advance training and private sector engagement.</li> <li>• Explore collaboration with Japanese developed forest institutions and private companies to support smart agriculture infrastructure development, Scale forest restoration and REDD initiatives and Prioritize green investment and digital finance for agriculture and forestry.</li> </ul> </li> </ol>	<p><b>Strategic Value of AHEAD 50</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. Strong practical exposure to advanced technologies and models             <ul style="list-style-type: none"> <li>The training provided first-hand experience on smart agriculture systems, sustainable forest management practices, cooperative-based agribusiness models, and innovative financing mechanisms, offering concrete examples that may be adapted in ASEAN.</li> </ul> </li> <li>2. Integration of policy, technology, and field implementation             <ul style="list-style-type: none"> <li>Participants benefited from a comprehensive approach combining policy dialogue (MAFF, ICGI), research insights (universities), and site visits, enabling better understanding of how strategies translate into real-world outcomes.</li> </ul> </li> <li>3. High relevance to ASEAN priorities             <ul style="list-style-type: none"> <li>Key themes such as climate resilience, agro-forestry, farming populations, forest restoration, digital technologies, and cooperative development aligned well with ASEAN's Smart Agriculture Initiatives, Sustainable forest management goals, and climate action frameworks, and the IAI Work Plan V (2025-2030).</li> </ul> </li> <li>4. Strong networking opportunities             <ul style="list-style-type: none"> <li>The programme facilitated engagement with Japanese government agencies, research institutions, cooperatives, and development partners, creating foundations for future ASEAN-Japan cooperation.</li> </ul> </li> </ol>
<p><b>【成果の発表】</b></p> <p>◆ 本プログラムの成果と今後の展望</p> <p>1. スマート農業、持続可能な森林管理、農業協同組合の発展、革新的な金融メカニズムに関する知識と実践的な理解を深めることができました。これにより、ASEAN が掲げる地域の優先事項との整合性が一層高まりました。</p>		

2. 本プログラムは、日本の関係者とのネットワークを強化する貴重な機会となり、農林業分野における協力関係をさらに深化させ、地域内の開発格差の是正に向けた取り組みに大きく寄与するものとなりました。連携を強化するための初期アイデアは以下の通りです。

- 研究開発：農林水産省、地球環境戦略研究機関、JICA と連携し、ASEAN 諸国におけるスマート農業実施の現状、格差、優先ニーズを把握・分析します。これには、農業従事者の高齢化対策としての可能性、気候変動への適応能力の強化、持続可能な森林管理の推進が含まれます。
- スマート農業実証プロジェクト：日本のスマート農業モデルを現地の状況に即して適応させ、選択された ASEAN 加盟国（特に CLMVT 諸国を優先）でパイロット事業を実施します。その際、高コストな先端ソリューションよりも、ドローンによる作物モニタリングや自動水管理システムなど、現地に適した費用対効果の高い技術を優先的に導入します。

#### 【アクション・プラン】

##### 1. プログラムで得た学びを ASEAN でのパイロット事業へ展開

日本のモデル（スマート農業システム、農協によるサービス、森林回復のアプローチなど）を参考にしつつ、手頃な価格で拡張性のある技術に重点を置きながら、現地の状況に適応させたスマート農業や持続可能な森林管理の実証プロジェクト等の取り組みを、ASEAN 諸国において展開します。

##### 2. 日本の機関との政策的・技術的連携の強化

農林水産省、JICA、IGES、JA 全中、各研究機関との協力を模索し、ASEAN におけるスマート農業の実施支援、持続可能な森林管理と回復の促進、及び農業協同組合を基盤としたアグリビジネスモデルの改善に取り組みます。

##### 3. ASEAN 戦略枠組みへの成果の統合

本研修の成果を、ASEAN スマート農業イニシアティブ、10 億本の樹木育成プログラム、気候変動対策に反映させます。

##### 4. ASEAN・日本間の継続的な対話プラットフォームの構築

関連する各分野機関の会合に日本の関係機関を招待し、定例的な政策・技術交流の場を設けます。双方の共通課題となっている分野において、日本の機関との共同プロジェクトやプログラムを策定します。

##### 5. 資金動員と民間セクターの関与

スマート農業のインフラ整備支援、森林回復及び自然に根ざした解決策イニシアティブの規模拡大、農林業分野におけるグリーン投資・気候資金の促進のために、日本の開発金融機関や民間企業との連携を模索します。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）